

**福山大学 グリーンサイエンス研究センター 2020年度 自己点検・評価書**

**基準1. 理念・目的**

**領域: 使命・目的、教育目的**

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

<b>中長期計画</b>	福山大学グリーンサイエンス研究センターの理念・目的に関して、センター規程には以下の様に記載されており、これを本センターの中長期的な使命・目的とする。 第1条 センターは、福山大学における先端的な学術研究基盤を強化し福山大学研究推進委員会の目的に沿って、生命工学部、薬学部を中心とするライフサイエンス分野の教育研究を推進し、地域の研究機関、産業界、自治体及び関係諸団体等広く社会と連携して活力ある地域づくりに貢献する。この理念・目的に則り、・研究プロジェクトの推進、・研究教育環境の改善、・研究教育を通じた地域社会への貢献を進める。
--------------	--

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

<b>中点検項目</b>	<b>1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的及び教育目的を設定していますか。</b>
<b>点検項目</b>	<b>① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。</b>
<b>現状説明</b>	本センターの使命・目的の意味・内容は、センター規程に具体的かつ明確に記載されている。
<b>年度目標</b>	現状を維持
<b>年度報告</b>	使命・目的はセンター規程に明確に記載されている。
<b>達成度</b>	<b>S</b>
<b>改善課題</b>	
<b>根拠資料</b>	①グリーンサイエンス研究センター規定
<b>点検項目</b>	<b>② 個性・特色を明示していますか。</b>
<b>現状説明</b>	センター規程にライフサイエンス分野の教育研究を推進すると記載されており、個性・特色を明示している。
<b>年度目標</b>	2020年度には里山里海研究部門、健康科学研究部門という2つの部門を設置し、更に個性・特色の明示に努める。
<b>年度報告</b>	センター規程にライフサイエンス分野の教育研究を推進すると記載されており、個性・特色を明示している。令和2年度からセンターに2つの部門を置き、更なる個性・特色の明確化を図った。
<b>達成度</b>	<b>S</b>
<b>改善課題</b>	
<b>根拠資料</b>	①グリーンサイエンス研究センター規定
<b>次年度の課題と改善の方策</b>	
<b>点検項目</b>	<b>③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。</b>
<b>現状説明</b>	本研究センターの使命・目的は、社会や時代の変化・要請に基づき、研究を通じて健康や環境、生物多様性などに貢献する事である。2020年度には社会の要請や背景の変化に応え、新たに2部門を設置した。
<b>年度目標</b>	現状を維持
<b>年度報告</b>	運営委員会などで社会の要請や背景の変化について検討し、2020年度からセンターに里山里海研究部門と健康科学研究部門を置いた。
<b>達成度</b>	<b>S</b>
<b>改善課題</b>	
<b>根拠資料</b>	①グリーンサイエンス研究センター規定
<b>次年度の課題と改善の方策</b>	

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

<b>中点検項目</b>	<b>1-2. 使命・目的及び教育目的の反映</b>
<b>点検項目</b>	<b>① 使命・目的及び教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。</b>
<b>現状説明</b>	現状では、大学のブランディング研究や文科省私立大学研究ブランディング事業の研究プロジェクトを通して、センターの使命・目標に教職員の理解と支持が得られていると考えている。
<b>年度目標</b>	研究の推進と研究成果の公表などを通じて、更に理解と支持が得られるように努める。
<b>年度報告</b>	全学の理解のもと大学の研究プロジェクト『瀬戸内の里山里海学』の一端を推進した。大学院FD研修などと兼ねてグリーンサイエンスセミナーを開催した。
<b>達成度</b>	<b>S</b>
<b>改善課題</b>	
<b>根拠資料</b>	①大学のホームページ『助成金事業・プロジェクト』

次年度の課題と改善の方策	大学ブランディング研究は2021年度が最終年にあたるので、次期プロジェクトにむけて準備する。
点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	センターの使命・目的は、研究成果やグリーンサイエンスセミナー、ホームページを通じて学内外へ公表、周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	コロナ禍で研究成果報告会はできなかったが、センターの使命・目的は大学ホームページなどを通じて学内外に公表、周知している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①大学のホームページ『助成金事業・プロジェクト』『グリーンサイエンス研究センター』
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	研究を通じて環境や健康に貢献するという本センターの使命・目的には普遍性があり、中長期計画に反映している。
年度目標	現状を維持
年度報告	使命・目的を中長期計画に反映させ、2020年度に2つの部門を設置した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①グリーンサイエンス研究センター規定
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーに反映していますか。
現状説明	本センターは独自の3ポリシーを持たない。大学のディプロマポリシーを本センターでの研究活動に反映させている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学便覧2020に掲載された福山大学の3ポリシー
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	本センターの組織構成は、センター規則に記載されているセンターの使命・目的と整合性が取れている。本センターは本学のブランディング研究のうち生命工学部と薬学部領域の研究をカバーしており、この中から優先課題研究、特別研究の研究組織を構成している。2020年度には新たに2部門を設置する。センターには新たに兼任教員を置き、そこからこの2部門の構成員を選ぶ。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度グリーンサイエンス研究センター運営委員会議事録 ②2019年度福山大学第12回評議会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

**基準2. 学生****領域: 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応**

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

中長期計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本研究センターは学生の受入れや意見への対応には直接関わらないが、学生の学修・研究支援、卒業研究などの学修環境の整備に貢献する。</li> <li>・本研究センターは、究極のアクティブティブラーニングである卒業研究、修士・博士論文研究を円滑に進めるべく学修環境の整備・支援を行う。</li> <li>・各学部、学科教員と緊密に連携することにより、学生がセンター施設を快適に利用できるよう配慮する。</li> <li>・以上を行うために、必要な施設設備や管理費、その他経費を大学に諮る。</li> </ul>
-------	--

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

<b>中点検項目</b>	<b>2-1. 学生の受入れ</b>
<b>点検項目</b>	<b>① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。</b>
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
<b>点検項目</b>	<b>② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。</b>
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
<b>点検項目</b>	<b>③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。</b>
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
<b>点検項目</b>	<b>④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。できていない場合、どのような対策を実施していますか。</b>
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

<b>中点検項目</b>	<b>2-2. 学修支援</b>
<b>点検項目</b>	<b>① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。</b>
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
<b>点検項目</b>	<b>② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。</b>
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	

根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
2020年度	グリーンサイエンス研究センター
中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
2020年度	グリーンサイエンス研究センター
中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。
現状説明	センターには専任教員、配属学生がいないので、ハラスメント対応は学部学科の発生防止対応に準拠している。センター独自のハラスメント発生防止策が必要であれば取り組む。現状でハラスメントは発生していない。
年度目標	現状を維持
年度報告	本センターの兼任教員にハラスメント事案が発生した（所属学科での発生）。

達成度	B
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	研究遂行上でこのようなハラスメントが発生しないよう、学部・学科と連携して発生防止に取り組む。
点検項目	⑧ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取り組みを行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施しています
現状説明	センター内の実験室やセンターに設置されている装置設備ごとに管理者を定め、良好な学修環境を保つよう整備と運営・管理を行っている。全体の運営はセンター運営委員会が担当し、センター長が全体を統括する。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持 4つの全学共同利用機器を共同利用センターに移設し、全学で有機的に利用した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度センター予算要求書 ②センター施設設備の保守点検記録
次年度の課題と改善の方策	センター3階トイレの配管が詰まって使用不能の状態が長く続いている。改修には大がかりな工事が必要と聞いているが、可能であれば改修工事を申請する。
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	本センターの実験施設・設備は、生命工学部・薬学部の学生実験や卒業研究等に活用されている。ICT教室や図書館はない。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持 図書館のオンラインサービスはよく活用している（文献検索など）。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①センター内の設備施設の使用記録簿
次年度の課題と改善の方策	次年度は、共同利用センターと連携して全学の装置を有効に利用したい。
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取り組んでいますか。
現状説明	バリアフリーについては特別な取り組みはしていない。各階の空きスペースにソファなどを設置し、アメニティスペースを確保している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①グリーンサイエンス研究センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	研究センターなので授業は行わない。現状では施設・設備は適切に管理され、機能的に利用されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	新型コロナ下で研究センターの施設を用いる学生実験では、密にならない様ビデオ録画や動画のアーカイブ化、YouTubeなどを利用して行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①YouTubeでの動画の限定公開



次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。</b>
現状説明	消防法や大学の方針に則り、火災報知器の検査や消火器の交換などを行っている。1階管理室にはAEDを設置している。
年度目標	現状を維持
年度報告	学部とともに大学の「安全衛生委員会」「福山大学における学生の安全衛生委員会」と連携し、安全衛生マニュアルならびに学生の安全衛生規程に従って、安全・防災に取り組ん
達成度	<b>S</b>
改善課題	
根拠資料	①センター内の火災報知器点検記録・消火器交換記録など
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。</b>
現状説明	全学の管理システムに準拠している。学内では各部局に劇物・危険物の管理に関する担当委員を置き、安全管理および管理システムの整備を行っている。また、「福山大学における学生の安全衛生委員会」および教員に対する「安全衛生委員会」に学部委員が出席して、全学的な取り組みに対応している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①各研究室の劇物・危険物管理記録簿
次年度の課題と改善の方策	次年度から化学物質管理システムが稼働するので、適切な運用に努める。
点検項目	<b>⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。</b>
現状説明	センター独自の取り組みは無いが、全学や学部学科の安全管理教育、災害時避難マニュアルに則って訓練等を行っている。全学の防災訓練に参加しており、2019年11月22日に実施された全学避難訓練に参加した。
年度目標	現状を維持
年度報告	大学の「自然災害対応マニュアル」および「福山大学危機管理基本マニュアル」をもとに、学部準拠して災害時避難訓練（2020年11月5日 12:10-12:30）を行った。「福山大学危機管理基本マニュアル」を見える場所に掲示した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	
根拠資料	①「自然災害対応マニュアル」 ②「福山大学危機管理基本マニュアル」
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	<b>2-6. 学生の意見・要望への対応</b>
点検項目	<b>① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。</b>
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。</b>
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

**基準3. 教育課程****領域: 卒業認定、教育課程、学修成果**

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

**中長期計画**

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

**中点検項目 3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定**

点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準（ルーブリック等の評価指標を含む）等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

**中点検項目 3-2. 教育課程及び教授方法**

点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメント・ポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	



点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックは、どのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

**基準4. 教員・職員****領域: 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援**

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

中長期計画	<p>・福山大学グリーンサイエンス研究センター規程第2条(目的)に則り、本学における先端的な学術研究基盤を強化し、研究推進委員会の目的に沿って、生命工学部、薬学部を中心とするライフサイエンス分野の教育研究を推進し、地域の研究機関、産業界、自治体及び関係諸団体等広く社会と連携して活力ある地域づくりに貢献すること、技術振興に資すること、を中長期計画とする。</p> <p>・具体的には大学のブランディング研究や特別研究を推進する。</p>
-------	--

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	<b>4-1. 教学マネジメントの機能性</b>
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	センター規程によりセンター長は学長が指名し、評議会の議を経て学長が任命する。副センター長は評議会の議を経て学長が任命する。また全学研究推進委員会の目的に沿ってセンター長がリーダーシップを執っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	<b>S</b>
改善課題	
根拠資料	①グリーンサイエンス研究センター規程
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	センター長と副センター長が協議して、権限・役割を分担している。事務系統は工学部・生命工学部事務室が担当し密接に連携している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①グリーンサイエンス研究センター規程
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネジメントの機能性を高めていますか。
現状説明	教職員の配置と役割は福山大学グリーンサイエンス研究センター規定に明記されており、教学マネジメントの機能性を高めている。2020年から新たに2部門を設置するのに伴い、センターに兼任教員を置く規程を設けた。
年度目標	2部門を新設して、更に教学マネジメントの機能性を高めていきたい。
年度報告	現状を維持。 新型コロナ禍もあり、新たに設けた2部門が十分活動できなかった。
達成度	<b>B</b>
改善課題	2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大のため、新設した2部門の機能的な活動が制限された。
根拠資料	①

次年度の課題と改善の方策	2020年度に新たに設けた2部門の機能性を高める。
2020年度	グリーンサイエンス研究センター
中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取り組みを行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
2020年度	グリーンサイエンス研究センター
中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	本センターの職員は、定期的に全学や学外のSD研修などを受講して、資質・能力の向上と教職協働への取り組みを実践している。2019年度は大学全体として「福山大学ブランディング研究成果発表会」「科研費獲得に関する研修会」「障害を持つ学生に対する対応」などのSD研修会が開催され、センターを利用する教員も参加した。
年度目標	現状を維持
年度報告	大学院FD研修を兼ねて、グリーンサイエンスセミナーを対面で1回開催した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①グリーンサイエンスセミナー開催案内・報告書
次年度の課題と改善の方策	新型コロナ感染が収まれば、SD、FDを積極的に企画・開催したい。
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	教職員は、大学運営の効率改善や情報共有のため、Office365やキャビネットKarinなどのICTを活用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①キャビネット Karin ②グリーンサイエンス研究センターホームページ

次年度の課題と改善の方策	
2020年度	グリーンサイエンス研究センター
中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	大学運營業務に費やす時間は増加傾向にあり、教員の研究時間確保は難しい。研究設備等の研究環境については、全学共通の分析機器は共同利用センターが維持管理している。研究費については、各教員が外部研究資金獲得に向け努力している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①センターの施設設備等の維持管理記録 ②施設設備の使用記録簿 ③センター兼任教員の勤務時間記録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	全学には研究安全倫理委員会が設置されており、遺伝子組換え生物倫理部会、実験動物倫理部会、微生物倫理部会、及びヒト倫理部会で、研究課題を適切に審査している。研究活動を行う過程で生じる可能性がある不正行為や研究費の不正使用については「研究関連ガイドブック」を事前に理解し、不正防止に努めている。学部教員全員が研究倫理に関わるeラーニングを受講することによって、コンプライアンス意識を高めている。また、学内に不正防止計画推進室が設置され、学内における教員に関する不適切なことがあった事項について調査をし、適切な処置が行われる体制となっている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①研究ガイドブック ②研究倫理委員会議事録等
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	2019年度は、文科省の私立大学研究ブランディング事業の経費・資源を大学のブランディング研究「瀬戸内の里山里海学」ほかに配分し、適正に運用した。
年度目標	2020年度は文科省予算が無くなり大学からの予算に切り替わるので、更に効率的な資源の配分や運用の適正化を目指す。
年度報告	大学からの研究活動への資源・経費の配分や運用は適切に行われた。
達成度	S
改善課題	文部科学省予算に変わる新たな外部資金の獲得を目指す。
根拠資料	①グリーンサイエンス研究センター予算要求書 ②福山大学研究プロジェクト2020フォローシート
次年度の課題と改善の方策	現在の大学ブランディング研究は2021年度を以て終了となるので、次期研究プロジェクトに向けた準備が課題である
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。
現状説明	大学は公的研究費を適正に運営・管理するためのガイドライン「研究関連ガイドブック」を全教員に配付している。また、FD研修会等で教職員に周知徹底している。全構成員が研究倫理に関わるeラーニングを受講することによって、コンプライアンス意識について検証を受けている。また、学内に不正防止計画推進室を設置し、学内で教員に関する不適切なことがあった事項について調査をし、適切な処置を行うよう運営している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①研究ガイドブックほか ②研究倫理eラーニング修了証書
次年度の課題と改善の方策	
2020年度	グリーンサイエンス研究センター

基準6. 内部質保証	
領域: 組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル	
2020年度	グリーンサイエンス研究センター
中長期計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーンサイエンス研究センターには自己点検研評価委員会が設置されており(運営委員会が兼ねる)、センターの組織体制や運営について自己点検を行う。</li> <li>・中長期計画としては、センター組織を見直し、兼任教員の再配置などによりさらに研究推進を図る。</li> <li>・大学ブランディング研究を推進し、研究内容や進展具合に関して学内外から意見を聞いてPDCAサイクルを回す。</li> <li>・そのほか、上部の研究推進委員会などでも研究の検証を行い、改革改善に努める。</li> </ul>
2020年度	グリーンサイエンス研究センター
中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	グリーンサイエンス研究センター自己点検評価委員会を設置し(運営委員会と兼ねる)、委員長、副委員長を置いて責任体制を確立している。また毎年自己点検評価を行い、委員会で検討する体制を確立している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度自己点検報告書 ②センター運営委員会(自己点検委員会)議事録 ③グリーンサイエンス研究センター自己点検評価委員会細則
次年度の課題と改善の方策	
2020年度	グリーンサイエンス研究センター
中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	毎年自己点検評価書をセンター自己点検評価委員会が作成し、大学が取り纏めて大学HPに掲載している。当該部署の教職員はこれを通じて結果を共有している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持。自己点検評価報告書は、センター自己点検評価委員会で共有し点検を行った。自己点検評価書は大学でまとめてホームページに掲載予定。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和2年度自己点検報告書 ②センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	福山大学Cabinet-Karinに、センター運営委員会(兼自己評価委員会)議事要旨を収載して活用している。十分な調査・データの収集と分析までは行っていない。また、IRを改善に十分に活かしているとは言えない。
年度目標	引き続きIRの活用に努める。
年度報告	IRについては、センター運営委員会議事録をキャビネットKarinに収載した。データの分析までは行っていない。
達成度	A
改善課題	IRをどのように活かせばよいかよくわからないのが課題である。
根拠資料	①キャビネット Karin
次年度の課題と改善の方策	
2020年度	グリーンサイエンス研究センター
中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。



現状説明	内部質保証のため本センターでも自己点検評価を行い、計画書・報告書を作成してセンター運営委員会（兼自己点検評価委員会）で検討している。研究推進・支援では、研究成果報告会や外部評価を受けて研究内容について検証し、その結果を改善に繋げるとともに、その機能性について検証している。
年度目標	現状を維持
年度報告	センター運営委員会（自己点検委員会）で内部質保証について検証した。
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①センター運営委員会（自己点検委員会）議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。</b>
現状説明	「福山大学キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン」、「学術研究における倫理審査について」、「男女共同参画宣言」、「研究費の取り扱いについて」、「個人情報管理基本方針」が制定されており、教員に周知され、意識の徹底が図られている。また、大学で起こりやすい種々のハラスメント、研究の不正、研究経費の不正等に関する全学レベルのFD研修会に参加することで、コンプライアンス意識を徹底している。また、倫理規定を含む研究活動は、学術倫理審査委員会の許可を得たうえで実施している。学部教員全員が研究倫理に関わるeラーニングを受講することによって、コンプライアンス意識について検証を受けた。学部教員全員が生命工学部で開催した研究倫理教育を受講した。これらの成果の具体的な検証は行っていないが、2019年度に関しては不正等の発生はなかった。
年度目標	現状を維持
年度報告	センター兼任教員にハラスメント事例が発生した。今後このような事がないよう、学部・学科と連携してコンプライアンス確立のための体制を整備したい。
達成度	<b>B</b>
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	センター兼任教員にハラスメント事例が発生した。今後このような事がないよう、学部学科と連携して再発防止に努めたい。

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

## 基準7. 福山大学ブランディング戦略

### 領域: 「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価（本学独自基準）

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

中長期計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>本研究センターでは、大学のブランディング研究「瀬戸内の里山・里海学」に則り、大学の方針に基づき優先課題研究と特別研究を推進する。</li> <li>本センターに「里山里海研究部門」と「健康科学研究部門」という2つの部門を設け、それぞれ生命工学部、薬学部を中心とした先端的な研究を進めるとともに、必要な支援を行う。</li> </ul>
-------	--

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	<b>7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進</b>
点検項目	<b>① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。</b>
現状説明	現在の福山大学ブランディング研究は本センターを中心として始まったものであり、これを通じて大学のブランディング戦略に貢献する。当然関連する部局のメンバーには広く周知されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	グリーンサイエンスセミナーなどを通じて周知した。
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①グリーンサイエンスセミナーの開催案内・報告書
次年度の課題と改善の方策	2020年度は新型コロナウイルス感染で十分な活動ができなかった。
点検項目	<b>② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取り組んでいますか。</b>
現状説明	現在世界的な関心事は持続可能性であり、本センターは国連が定めた持続可能な開発目標（SDGs）への貢献を通じて本学のブランディング確立に貢献すべく努力している。
年度目標	現状を維持
年度報告	本年度の研究成果として、優先課題研究の有瀬教授のシロギスの養殖研究や、佐藤准教授の生物多様性の研究成果がマスコミなどに取り上げられた。
達成度	<b>S</b>



改善課題	
根拠資料	①大学ブランディング研究の進捗状況を大学HPに掲載 ②各種メディアへの掲載記事等 ※佐藤淳准教授の研究内容がYahoo! ニュースや山梨放送の番組で放映 ※山岸准教授が水生生物の専門家として「世界の何だコレ!?ミステリー」(フジテレビ)に登場
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取り組んでいますか。</b>
現状説明	持続可能性や生物多様性、生態系サービスや環境保全など、世界的に取り組むべき課題を身近な瀬戸内を舞台に展開する研究プロジェクトを推進しており、プロジェクト研究を通じて地域から国際社会に繋がる人材の育成に努めている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①大学ブランディング研究の内容を大学HPに掲載
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目指しています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。</b>
現状説明	上の③の現状説明で記載した取り組みを行っている。その成果は、研究成果発表会、研究成果報告書、外部評価などで検証している。
年度目標	現状を維持
年度報告	本センターが担っている優先研究課題Ⅰ-①、②を推進し、その成果は学術論文や、上位の研究推進委員会などで検証した。
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①大学のホームページ『助成金事業・プロジェクト』 ②学術論文
次年度の課題と改善の方策	次年度新型コロナ感染が終息したら、地域創生に対する貢献とその検証を進めたい。
点検項目	<b>⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。</b>
現状説明	上の③の現状説明で記載した取り組みを行っている。社会とつながる研究(卒業研究など)を通じて地域の中核となる人材を育成し、地域に輩出している。成果の検証は、学生の就職状況などで行う。
年度目標	現状を維持
年度報告	卒業研究や修士論文研究の課題として本研究センターの研究プロジェクトに取り組み、これを通じて人材育成に貢献した。その成果は卒業生の進路などで検証した。
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①2020年度 生物工学科・海洋生物科学科 卒業研究発表会プログラム
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。</b>
現状説明	「瀬戸内の生態系解明と資源利用・教育」研究プロジェクトでは、地域の行政(福山市や等岡市、尾道市など)や地域企業(日本総合科学他)と連携した取り組みを進めている。
年度目標	現状を維持
年度報告	本年度の研究成果として、優先課題研究の有瀬教授のシロギスの養殖研究や、佐藤准教授の生物多様性の研究成果がマスコミなどに取り上げられた事を以て検証した。
達成度	<b>A</b>
改善課題	

根拠資料	①大学ブランディング研究の進捗状況を大学HPに掲載 ②各種メディアへの掲載記事等 ※佐藤淳准教授の研究内容がYahoo!ニュースに掲載、山梨放送で番組放映 ※山岸准教授が水生生物の専門家として「世界の何だコレ!?ミステリー」(フジテレビ)に登場など
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	本センターは研究センターであるので、社会に繋がる卒業研究などを通じて全人格的な教育に取り組んでいる。その成果は卒業研究発表会や卒業論文などで検証する。
年度目標	現状を維持
年度報告	生命工学部、工学部の多くの学生が、卒業研究や修士論文研究の課題として本研究センターの研究プロジェクトに取り組み、これを通じて人材育成に貢献した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度 生物工学科・海洋生物科学科 卒業研究発表会プログラム
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑧ 福山ブランディング戦略は、これからも進化させて、さらに発展させることが必要です。ブランディング戦略のブラッシュアップにどのように取り組んでいますか。
現状説明	大学ブランディング研究「瀬戸内の里山里海学」は瀬戸内から世界へ！を旗印に推進している。この中で環境、生態分野に加え、工学系、文系分野とも連携して更にブラッシュアップに取り組んでいる。また薬学部との連携を更に推進したい。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。2021年度は大学ブランディング研究の特別研究として、薬学部の研究課題にも助成いただけることになった。
達成度	S
改善課題	現状では薬学部の研究が福山大学ブランディング戦略に反映されていないので、これを反映させるのが課題である。
根拠資料	①2021年度グリーンサイエンス研究センター予算要求書
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取り組んでいますか。
現状説明	全学のプロジェクト研究に則り、「瀬戸内の生態系解明と産業利用・教育(略称)」や薬学部の特別研究を主導している。例を挙げると、環境DNAを用いた里山の動物相の把握、バイオロギングを用いた動物の行動分析、環境DNAを用いた藻場、流れ藻、干潟の魚類相の把握、水圏微生物のゲノム分析、水族館・小中学校等での環境教育、里山里海ネットワーク授業、水産資源次世代養殖システム、高付加価値水産資源の開発、海洋由来有用物質・微生物の探索などの取組を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	生命工学部と工学部連携で、「瀬戸内の里山里海学」研究プロジェクトに多面的に取り組んだ。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学ブランディング研究の進捗状況を大学HPに掲載 ②学術論文
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	2019年度は、内部資金については、もともと外部資金である文部科学省の私立大学研究ブランディング事業経費を原資に充てている。また研究メンバーが科研費などの外部資金を獲得している。
年度目標	2020年度からは、文科省ブランディング補助金が無くなり大学からの経費に切り替わるので、更に効率的な運用を進めるとともに、外部資金の獲得を目指す。
年度報告	内部資金は大学からの大学ブランディング研究助成で、外部資金はメンバーの科学研究費などを充てた。

達成度	<b>A</b>
改善課題	文科省補助金が無くなるので、新たな外部資金の確保が課題である。
根拠資料	①グリーンサイエンス研究センター2020年度予算要求書 ②科学研究費採択書ほか
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。</b>
現状説明	審査付き学術論文、その他論文、報文、学会発表、マスコミへの掲載のほか、毎年公開の研究成果報告会を開催しており、ホームページ上に研究成果報告書を公表している。また研究関連情報についてはホームページやプレスリリースなどを通じて社会に発信している。
年度目標	引き続き、積極的に研究成果を社会に発表する。2020年度は文科省プロジェクトの研究成果発表会と研究報告書の刊行が予定されている。また研究成果を取り纏めて、一般向けの読み物を刊行したい。
年度報告	研究成果は、基本的には学術論文や学会で発表し、大学のホームページに掲載した。また有瀧教授、佐藤准教授らの研究は新聞やネットに取り上げられた。
達成度	<b>S</b>
改善課題	2019年度を以て文科省プロジェクトが終了するのが課題である。
根拠資料	①大学のホームページ『助成金事業・プロジェクト』 ②学術論文、学会発表要旨 ③新聞記事やネット記事（Yahoo！ニュースなど）の掲載記事
次年度の課題と改善の方策	次年度新型コロナ感染が落ち着いたら、研究成果発表会やYouTubeによる情報発信を行いたい。